

## 令和7年度に向けた改善方策

世田谷区立千歳小学校

学校長 石川 淳

教務主幹 坪木 有大

### 1. はじめに

令和6年度の自己評価結果を通して、児童の主体性や協働性、キャリア教育に関する意識が着実に育まれてきたことが明らかになりました。特に「自分らしさの尊重」や「目標に向かって努力する姿勢」に関しては、全学年において高い評価が得られ、教育活動の成果が表れています。一方で、高学年児童の学習への意欲や学びの楽しさの実感が相対的に低下傾向にあることや、保護者・地域との意識の乖離が見られた点については、次年度に向けて改善すべき重要な課題であると捉えています。

### 2. 高学年児童の学習意欲・挑戦意識の向上に向けて

令和6年度のアンケート結果では、「自分で課題を見付け、解決していく学習が楽しい」と感じている児童の割合が、高学年ほど低下していることが明らかになりました。また、「学習したことから自分は何ができるかを考え、新しいことに取り組むのが好きだ」とする回答も、6年生においては目標値を下回る結果となっています。

このことから、高学年では学習内容の難化や量的な増加に伴い、児童が「学びの楽しさ」や「自らの学習の意味」を実感しにくくなっている現状がうかがえます。これに対し、次年度は教科横断的な探究的学習を推進するとともに、学習内容を児童の生活や社会的課題と関連づけて提示し、「学ぶ意味」を具体的に伝えていくことが必要です。

さらに、キャリア・パスポートを活用した振り返り活動を充実させ、自分の成長や挑戦の軌跡を実感できるようにします。こうした実感が、児童の自己肯定感を育み、「もっと学びたい」「自分ならできる」という前向きな姿勢の醸成につながると考えます。

### 3. 保護者・地域との信頼関係の再構築と意識の共有

今回の自己評価において、児童の学校生活に対する満足度が大きく向上している一方で、保護者および地域住民の評価は一部で低下傾向を示しました。特に、「地域の中の学校としての意識」に関する評価が大幅に下がっている点は、学校と地域社会とのつながりが希薄になりつつある兆候として深刻に受け止める必要があります。

今後は、児童の学びや成長の様子をより丁寧に伝える「学校便り」や「学級通信」の内容

をさらに充実させるとともに、学校ホームページを活用し、活動の様子をタイムリーに発信していく取り組みを強化します。また、授業公開や学習成果発表会、保護者懇談会を通じて、学校がめざしている教育の方向性と、児童がどのように成長しているかを共有する機会を増やします。

加えて、地域の方々を学校に招いた授業や行事の実施、地域講師による出前授業などを通じて、地域と学校が双方向で関わりを深める場づくりを推進します。これにより、学校が地域とともに歩む存在であるという意識を再び根付かせていくことを目指します。

#### 4. キャリア教育の充実と中学校との接続強化

キャリア教育に関する児童の意識は確実に向上しており、「自分の生き方や将来について考える授業がある」と回答する児童の割合は前年度より上昇しました。しかしながら、保護者の認識との間には依然としてギャップが存在しており、取り組みの意図や成果が十分に家庭に伝わっていない現状があります。

そこで、次年度はキャリア・パスポートの活用をさらに体系化し、様式の統一や記入内容のガイドを整備することで、児童の成長記録としての機能を高めます。また、各学期末の振り返りには教員と保護者の双方からコメントを添えることで、児童の挑戦や努力を家庭と共有し、承認の機会を意図的に設けていきます。

また、「学び舎」として連携する区立中学校とのつながりを強化し、小中接続の円滑化を図ります。6年生が中学校を訪問し授業体験を行う機会や、中学校教員との交流を取り入れ、児童が将来の自分の姿を具体的に思い描けるような機会を継続的に設けていきます。

#### 5. 探究的な学びの深化と保護者理解の促進

せたがやの重点でもある「探究的な学び」に関しては、児童の意識は一定の成果が見られるものの、保護者からの評価はやや低調であり、活動の意図や内容が十分に理解されていない可能性があります。

このような状況を改善するためには、単発的な活動にとどまらず、日常的に児童が自ら課題を見つけ、調べ、解決策を導き出す一連の過程を授業全体に埋め込んでいく必要があります。校内研究を通して各教科の特性に応じた課題設定力・振り返り力の育成に重点を置いた授業改善を進め、児童が自らの学びに意義を感じ、深く考える経験を積み重ねられるようにしていきます。

また、家庭への発信においては、学習の成果だけでなく「プロセス」も伝えられるよう工夫し、保護者が探究的な学びの本質を理解できるような広報や学習発表の機会を増やしていきます。

## 6. ICT 活用の進化と家庭との連携強化

ICT の活用については、児童の活用力や学習意欲は向上している一方、保護者の評価が大きく低下しているというギャップが見られました。特に「家庭での活用」や「学習成果の可視化」に関する情報が不足していることが一因と考えられます。

次年度は、タブレットや学習アプリの効果的な使用方法について、定期的に保護者へ情報提供を行います。また、児童の作品やプレゼンテーションをデジタル形式で共有する機会を増やし、学びの成果を家庭と結びつけていきます。

さらに、ICT 機器を単なるツールとしてではなく、児童の課題解決能力や表現力を高める「学びの道具」として位置づけた指導を一層強化していきます。教員の ICT 活用スキル向上にも継続的に取り組み、質の高い授業デザインの実現を図ります。

## 7. おわりに

千歳小学校が掲げる「通うことが楽しい学校」「安心して託せる学校」「教えることで教わる学校」の実現に向けて、令和7年度はこれまでの取組の成果を確実に積み上げつつ、新たな課題に対して柔軟かつ意欲的に取り組んでまいります。児童、教職員、保護者、地域が三位一体となり、子どもたちの未来を共に育む学校として、よりよい学校づくりを進めていきます。